

2022年度 大学図書館職員短期研修 (10月20日)

# 海外研修経験から見た 大学図書館

神戸大学附属図書館 電子情報グループ  
有馬良一  
ryarima@amethyst.kobe-u.ac.jp



# 本日の内容

- ◆ 海外研修参加のきっかけ
- ◆ 研修の概要
- ◆ 各校の具体的な取り組み
  - ・シンガポール国立大学（NUS）
  - ・南洋理工大学（NTU）
  - ・シンガポール・ポリテクニク（SP）
- ◆ 海外研修経験から見た大学図書館
- ◆ 海外研修のすゝめ

# 自己紹介

2014年4月: 社会科学系情報サービス係  
(カウンター業務・ILL等)

2016年8月: 情報リテラシー係  
(ガイダンス・公報・Webサイト管理等)

<2016年10月 短期研修

2019年7月: 情報システム係 (2021年4月～: 電子情報グループ 情報システム担当)  
(図書館サーバ/端末の保守/管理・システム更新等)

<2019年10月 海外研修

2022年10月: 電子情報グループ 電子図書館担当

# 海外研修に応募したきっかけ

- 国立大学図書館協会には「海外派遣事業」という制度がある  
(私立大学図書館協会にも類似の制度がある)
- 職場の先輩たちが同制度をしっかりと利用していた
- 海外の先進的な取り組みに興味があった
- 海外の事例を参考に、新しいガイダンスを試してみたかった

# そもそも「海外派遣事業」とは？

## 目的

- 図書館における海外の先進的な事例を調査・研究し、わが国の学術環境の中でどのように展開していくかを検討すること
- 国際連携という観点から、図書館活動に関連する国際会議へ参加し、日本の状況等について発表すること

## 対象者

- 国立大学図書館協会会員館の常勤職員（管理職を除く）
- 短期研修or長期研修を受講済み（ただし45歳以下）

# 研修の概要

## 日程

2019年10月7日（月）～11日（金）

## テーマ

シンガポールの高等教育機関附設図書館における学修支援活動

## 目的

シンガポールの高等教育機関（大学・ポリテクニック）における各種学修支援活動（主に情報リテラシー教育）の実態調査

## 訪問先

10/8 - シンガポール国立大学（NUS）

10/9 - シンガポール・ポリテクニック（SP）

10/10 - 南洋理工大学（NTU）

## なぜシンガポール？

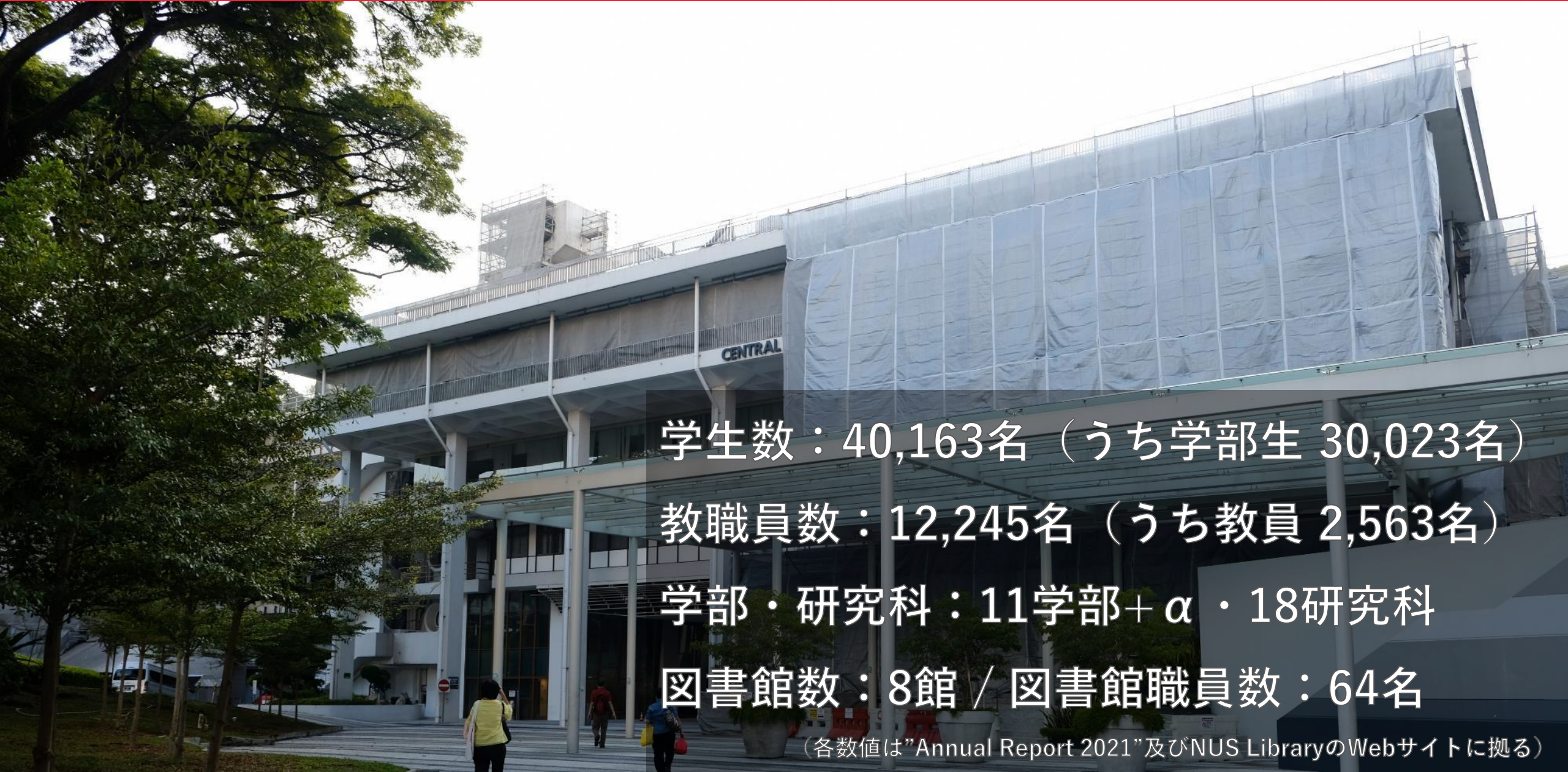
- QS世界大学ランキングにおいてNUS, NTUともアジア首位圏
- 人を唯一の資源と位置付け、教育への政府支出の割合が多い
- 同じアジア圏

## なぜ学修支援？

- 入職当初から学修支援に関わるが多かった
- 応募当時の職掌がまさに学修支援（情報リテラシー教育）だった
- もっとガイダンスやサービスの幅を広げたかった



# 各校の取り組み：NUS



学生数：40,163名（うち学部生 30,023名）

教職員数：12,245名（うち教員 2,563名）

学部・研究科：11学部＋ $\alpha$ ・18研究科

図書館数：8館 / 図書館職員数：64名

（各数値は”Annual Report 2021”及びNUS LibraryのWebサイトに拠る）



# NUS – 学修支援プログラム等

- 授業等との連携が情報リテラシープログラム（IPL）の8割を占める
- ターゲットを決めて図書館からマーケティング  
→ シラバスにIPLを記載し、協働講師として授業に参画
- Researcher Unboundの実施
- サブジェクト・ライブラリアンがLibGuidesでガイドを作成  
→ 授業のなかでガイドを活用することもある
- レファレンスはメール中心  
→ 管理画面から他のライブラリアンも回答等を照会できる

# NUS – スペースや機材の工夫

- 2019年の改修工事によって学修スペースを大幅増
- ARやVRを気軽に体験できるTech Centralを設置
- PC等の機材の充実



現在の各スペースの詳細は、Facilities (<https://nus.edu.sg/nuslibraries/spaces/facilities>) および  
バーチャルツアー (<https://nus.edu.sg/nuslibraries/spaces/our-libraries/central-library#virtualtours>)を参照のこと

# 各校の取り組み：NTU



学生数：34,384名（うち学部生 24,871名）

教職員数：7,613名（うち教員 1,627名）

学部・研究科：3の学群＋α

図書館数：7館 / 図書館職員数：48名

（各数値は”NTU at a Glance 2022”及びNTU LibraryのWebサイトに拠る）

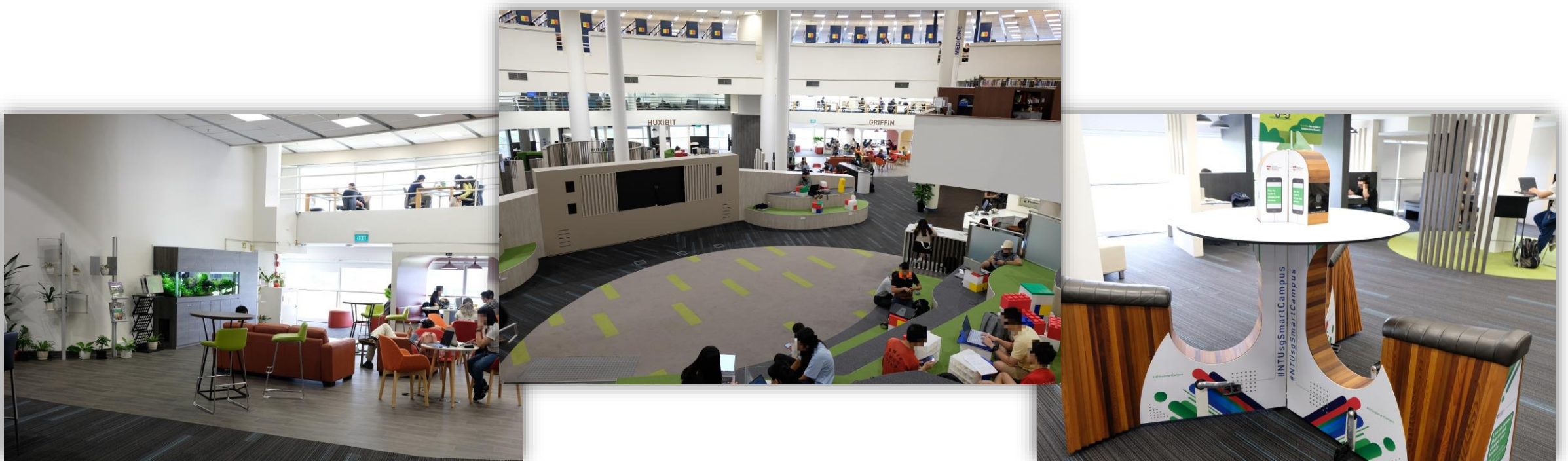
# NTU – 学修支援プログラム等

- 主に学部生向けのe-ラーニング用モジュールの作成  
→ 学生アルバイトと協働で作成・必修科目でも活用
- 対面式ワークショップは院生・研究者を主な対象として実施  
→ 全大学院生必修のワークショップもある
- 他部局と連携し、学部生向けの講義・プログラムにも参画  
→ 働きかけは図書館から
- サブジェクト・ライブラリアンがLibGuidesでガイドを作成  
→ ひとつの分野を2人以上で担当



# NTU – スペースや機材の工夫

- Smart Campus実現のため、協働学修用のスペースを多く設置
- PC等の機材やスペースの充実
- リラックスして過ごせる（健康的な）空間にするための配慮





# 各校の取り組み：SP



学生数：19,120名

教職員数：1,417名（うち教員 741名）

学部・研究科：11学部

図書館数：1館＋ $\alpha$  / 図書館職員数：11名

（各数値は”Annual Report 2020/2021”及びSPのWebサイトに拠る）

# ポリテクニクとは

- 高等教育機関（post-secondary school）の一種
- 研究ではなく、職業教育（実学）を担当
- ディプロマを取得できる
- 卒業後、大学への編入も可能

# SP – 学修支援プログラム等

- 各学部ごとに担当となるスクールライブラリアンを設置  
→ 担当学部の教材やガイド、モジュールを作成
- 授業のモジュールは、他のポリテクニック等と共同運用している  
サイト（POLITEMall）で公開  
→ 授業プログラム修了の条件にもなっている
- スクールライブラリアンがLibGuidesでガイドを作成  
→ 基本的なガイド以外は、教員の要請によって講義ごとに作成
- チャットbotは、他のポリテクニックと共同で運用（していた？）



# NTU – その他の取り組み

- フロアごとに対象の学部を絞り込んだ構成
- 学生の興味を引き出すための各種展示等の工夫
- 3Dプリンタなどを備えたMakerspace@Libを設置



# 各機関の図書館における学修支援活動の特徴

- 学修のためのスペースを重視
- ワークショップの内容は ”研究すること” を意識
  - フェイクニュースやCRAAP Testなど情報の評価を重視
  - 研究の入り口からデータの整理、発表までをサポート
- オンラインツールの活用
  - 対面式ワークショップ／講義等との組み合わせも重要
- 打って出る積極性
  - 大学のミッションやビジョンと自館のそれらを強く意識
  - 評価に対する危機感

# 海外研修経験から見た大学図書館

ひと言でいうと……

アクティブ

# 海外研修のすゝめ

※ 個人の感想です

- 興味 / 好奇心 / 違和感 / 焦燥感……, etc.  
→ 行って見て学んでみよう
- あらかじめ感情や興味を具体的な言葉に
- 内容は当然大事, でも前提にはやっぱり言語
- 先方への連絡はフォームがいい？
- 内容によっては、渡航時期もしっかり考慮